

## 平成 21 年度における研究の実施状況

平成 22 年 3 月 10 日に本研究課題「免疫ダイナミズムの統合的理解と免疫制御法の確立」に関する具体的な助成金額が確定したこと、また、査定の結果、研究チームの再編成を行う必要が生じたことに伴い、各研究グループ間で話し合いを行い、今後の研究計画に関する方針を確認した。審良静男サブグループを中心に、石井優サブグループ、菊地和也サブグループ間で免疫ダイナミクスを明らかにするイメージング手法開発、イメージングプロトタイプ開発の方向性を議論した。また、Nicholas Smith サブグループとの間ではラマン顕微鏡を用いた解析の方向性やその仕様に関し議論した。北海道大学稲垣冬彦サブグループとは構造解析を行う蛋白質に関し話し合いを行い、東京大学中井謙太サブグループの中井教授、鈴木准教授らと免疫応答に関する遺伝子発現解析に関する話し合いを行った。同時に、今後の研究に必要となるプラスミドなどのマテリアル収集を行った。

本研究計画で、自然免疫から獲得免疫活性化に関わる分子メカニズムの研究、免疫ダイナミズムのイメージング解析を行うにあたり、蛋白質の同定に必要な質量分析器、遺伝子発現解析及びエピジェネティクス解析に必要な次世代シーケンサー、非染色免疫細胞内観察を行うラマン分光顕微鏡、免疫細胞間相互作用解析に必要な 2 光子顕微鏡などの機器が必要となる。そこで、それぞれの機器に関し、必要な仕様に関する議論を行い、その購入に関し仕様策定委員会を立ち上げることとした。